

東北地方津波防災支援システム利用者講習会において津波観測情報の活用をテーマに講師を担当しました(2017/1/18-19,25-26)

テーマ：リアルタイム津波観測情報，沖合津波観測情報，GPS 波浪計，災害情報システム
場所：酒田市，仙台市，久慈市，大船渡市

1 月 18～19，25～26 日の4日間にわたり、山形県酒田市、宮城県仙台市、岩手県久慈市および大船渡市を会場に東北地方津波防災支援システム利用者講習会（主催：東北における津波防災情報連絡協議会事務局（東北地方整備局港湾空港部））が行われました。この講習会は、東北地方整備局が東北地方の沖合 10 か所に設置している GPS 波浪計の潮位観測情報を、津波発生時は防災関係機関向けの専用システムにおいてリアルタイム津波観測情報として表示し、事中の災害対応や避難指示等に活用することを目的として、東北 6 県の県および市町村や消防機関の防災担当者等を対象に毎年度行われているものです。

講習会では事務局から東北地方津波防災支援システムの提供情報や操作方法が詳説されたほか、仙台管区気象台から津波防災情報について解説を行い、当研究所からは安倍祥助手（寄附研究部門）が訓練形式によるシステム活用の実践について講師を担当しました。

システム活用実践の講習では、東北地方沖合を震源とする近地津波の発生を想定し、地震発生から津波警報の発表、沖合における津波観測の初報や、複数の観測点で次々と津波が観測される状況をシナリオとして設定し、沿岸に津波が到達するわずかな時間において、観測情報の分析と判断を行い、住民の避難や防災関係機関の被害防止と退避活動等に情報を生かす方法を演習・訓練形式で扱いました。防災支援システムを操作しながら表示される情報を読み取って時々刻々の判断していくことや、情報発信の伝達文案を具体的に検討するなど、災害対応に沿った内容を取り入れたほか、リアルタイム情報を災害対応の事中に活用するポイントや事前に検討・計画しておくことが望ましい事項について解説も行いました。

参加者からは、沖合における津波観測波形を活用することの難しさや、住民に伝えることの難しさなどが意見として出された一方、観測の事実を災害対策本部等で共有することの重要性を認識する声なども聞かれました。

このほかに、平成 28 年 11 月に発生した福島県沖の地震に伴う津波の、当時の観測状況や観測情報の沿岸市町村における活用状況、沖合観測と沿岸の検潮所等の観測情報を組み合わせた判断の必要性などについて事例紹介も行いました。

当研究所では、自治体等の災害対応能力の向上に向け、これからも人材育成や講習に積極的に取り組んで参ります。



写真 訓練形式によるシステム活用実践の講習風景（仙台会場）
（写真提供 東北における津波防災情報連絡協議会事務局）

文責：安倍 祥（寄附研究部門）